

「光の武具を身に着けよう」

ローマ13：11-14

堀田修一 24・8・18

- I 「さらあなたがたは、今はどのような時であるか知っています。あなたがたが眠りからさめる時刻が、もう来ているのです。私たちが信じたときよりも、今は救い（主の再臨による裁きと救いの完成）がもっと私たちに近づいているのですから」：11。主が語られた世が終わる時のしるし＝「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい光景や天からの大きなしるし（異常気象等）が現れます」（ルカ21：10, 11）。「しかし、これらはすべて（新天新地の）産みの苦しみの始まりなのです」（マタイ24：8）。
1. 「今はどのような時であるか知っています」。「その日、その時がいつなのかは、だれも知りません。…ただ父だけが知っておられます」（マタイ24：36）。主の再臨の日は、人間には、知らされていなくても、終末、主の再臨の時が近づいている時、時代であることを知っている。「あなたがたも用心していなさい。人の子（主イエス）は思いがけない時に来るのです」（24：44）。
2. 「あなたがたが眠りからさめる時刻が、もう来ているのです」。「眠り」とは、主の再臨はないのではないかという油断のこと。「終わりの時に、嘲る者たちが現れて嘲り、自分たちの欲望に従いながら、こう言います。『彼（主）の来臨の約束はどこにあるのか。父たちが眠りについて後も、すべては創造のはじめからのままではないか。』…しかし、今ある天と地は、同じみことばによって、火で焼かれるために取っておかれ、不敬虔な者たちのさばきと滅びの日まで保たれているのです。…主の前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。主は…約束したことを遅らせておられるのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。しかし、主の日は盗人のようにやって来ます」（I ペテロ3：7-10）。
- II 「夜（不信仰と不道德の闇）は深まり、昼（暁。主の再臨のさばきと救いの完成の希望の光）は近づいて来ました。ですから私たちは、闇のわざ（神に喜ばれない罪、悪の行い）を脱ぎ捨て（ご聖霊の力で罪、悪から離れ）、光の武具（神の武具、みことば、信仰、祈り）を身に着けようではありませんか。遊興（悪に支配される遊び）や泥酔、淫乱や好色、争い（個人個人の争い、分派の争い、国と国の戦争）やねたみ（人と比較し、神が与えられたものに感謝しない心）の生活ではなく、昼らしい、品位のある生き方（ご聖霊により主の品性に変えられ続ける歩み）をしようではありませんか」：12, 13。
- III 「主イエス・キリストを着なさい。欲望を満たそうと、肉に心を用いてはなりません」：14。「主イエス・キリストを着なさい」。キリストを着るとは、私たちの罪の刑罰を十字架で受けられた主を信じ、キリストの義の衣を着る事（義認・罪の赦しの恵み）、キリストご自身との霊的な結合（聖化、主との深い交わり）を示します。御聖霊により、罪から離されて、主を信じる時に聖霊が心に内住され、霊的にキリストに結合される、キリストのからだである教会に霊的に

所属し、一つとされる。「キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな、キリストを着たのです。ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もありません（神には差別がない）。あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって一つだからです。あなたがたがキリストのものであれば、アブラハムの子孫「神のイスラエル」（ガラテヤ6：16）であり、約束による相続人です」（ガラテヤ3：27-29）。

IV 主の再臨の確かな事実としての希望のみことば。神のみことばは、悪魔の誘惑と戦う最高の武器

1. 「イエスが死んで復活された、と私たちが信じているなら、神はまた同じように、イエスにあって眠った人たち（旧約と新約時代の主を信じた神の民の魂）を、イエスとともに連れて来られるはず。私たちは主のことばによって、あなたがたに伝えます。生きている私たちは、主の来臨まで残っているなら、眠った人たち（先に天国に行っている神に救われた民の魂、霊）より先になる（先に栄光のからだをいただく）ことは決してありません。すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます（地上に）。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり（墓に葬られている骨と天国に挙げられた魂が一つとなり、栄光のからだに変えられる）、それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ（栄光のからだに変えられ）、空中で主と会う（会うの原語：迎えるの意。神の民全体が主を迎え地上に戻る）のです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいること（これこそ真の幸い、救いの神髄、源、頂点。もし、最高に美しい新天新地に三位一体の主がおられないなら、そこに真の幸い、救いの喜びはない）になります。ですから、これらのことばをもって互いに励まし合いなさい」Ⅰテサロニケ4：14-18。
私たちが、素晴らしい聖書を読んで、一致すべき重要な点が、4つあります。

- ① キリストの再臨。キリストは超自然的に天から来られ、すべての不義、不正を正しくさばかれ、主を信じているすべての人々の救いを完成（罪が全くない聖い愛の心と病や障がいのない栄光のからだに変えられる＝栄化）されます。三位一体の主は永遠に私たちと共にいて愛して下さい。
- ② 主の再臨の前に大きな苦難があるという理解。「神の国に入るために、多くの苦しみを受けなければならない」使徒14：22。「キリストの苦難にあずかればあずかるほど、いっそう喜びなさい。キリストの栄光が現れる（再臨の）ときにも、歓喜にあふれて喜ぶためです」Ⅰペテロ4：13。
- ③ 主を信じている人は、死後、天国に行き、御使いたち、聖徒たちと共に神を礼拝し賛美している。
- ④ 新天新地の実現。主の再臨後、この世界は終わり、最後の正しい審判があり、天地創造に匹敵する根源的な神による変革（主を信じている人々の救いの完成、栄化と全被造物の贖い、新創造）があり歴史が完成し、創造の目的が達成され、天と地が全く新しくされます。黙示録21章。

この4点こそ、キリスト教終末論の核心であり、私たちの希望です。この点で一致しているなら、小さな違いを超えて、私たちは協力できます。

2. 悪魔自身が、世の終わりに再臨される主によって、自分が敗北することを知っています→「彼らを惑わした悪魔は火と硫黄の池（地獄）に投げ込まれた。そこには獣（悪の政治的権力、軍

事力、自らを神格化)も偽預言者(聖書と違う滅びに導く教えをする人々)もいる。彼らは昼も夜も、世々限りなく苦しみを受ける」黙示録20:10。ですから、悪魔は最後のあがきとして、私たちを悪に誘惑し、間違った教えに誘惑して来ます。また、日々、困難、試練がある中、私たちを失望、絶望に引き込もうとします。しかし、私たちは、失望する必要はありません。愛と真理に満ちた勝利の主がいつもともにいて支えて下さり、死を迎えても天国に迎え入れてくださいます。また、いつかは分かりませんが、神の時に主が再臨され、悪への裁きと主を信じる者への救いの完成と全被造物の新創造を成し遂げてくださいます。ですから、日々、素晴らしいキリストを着ましょう。キリストを着るということは、キリストのみことばを霊的な武具として身に着け、みことばを心に蓄え、悪魔の誘惑に立ち向かうことです。まだ主を信じていない人々が、主を心に迎え、救われ、キリストを着るように、愛の関係作りをしつつ福音を伝えましょう。

「悪魔の策略に対して堅く立つことができるように、神の全ての武具(みことば・信仰・祈り合い)を身に着けなさい」エペソ6:11。応答の賛美「たちあがれいざ」の歌詞を噛みしめ賛美しましょう!